多摩地域史研究会会報

第164号　　2025（令和7）年1月15日発行

[illegible]
[illegible]
[illegible]

【第122回例会報告】今回の例会は、12月21日（土）立川市のたましんRISURUホールで行なわれました。発表者は北村敏氏、内野正氏のお二人で、参加者は発表者を含み14名でした。発表内容を以下に掲載します。

【発表1】

1965(昭40)～2020(令2)年、三多摩30市町村の水田面積の変化

北村　敏

（日野水の会・元大田区立郷土博物館学芸員）

はじめに

私ごとだが日野市内の多摩川・日野橋近くに移住して40余年になる。2000年1月に多摩都市モノレールが立川北駅から多摩センター駅まで開通、近くに甲州街道駅ができ、少し離れるが万願寺駅もあり便利になった。2007年には多摩川の左岸の国立市との間に石田大橋が完成、八王子市方面に通じる日野バイパス道が、新国道20号線として設定された。これで立川から日野橋を経由していた旧国道20号線(甲州街道)の渋滞解消が実現した。

一方、身近にあった農地は区画整理され、瞬く間に戸建て住宅やマンションとなり、用水のせせらぎや蛙が啼いていた水田はすべて消え、生産緑地と杭打ちされた畑地と梨畑を少しだけ残すことになった。

こんな身辺景観激変の中で三多摩30市町村の高度成長期から今日までの農業耕地、とりわけ水田面積の変化を知りたくなった。そこで、1965(昭40)～2020(令2)年の55年間を確認できる公的統計資料をもとに系統的にその変遷を数字で追ってみることにした。

三種類の公的統計資料

各市町村の農耕地を経年把握できる統計資料は三種類ある。

①世界農林業センサス—『東京都統計年鑑』の農業欄に収録、また各自治体の産業統計農業欄にも収録される。

②作物統計—『東京都農林水産統計年報』に収録され、東京都HP「東京都の農林水産統計データ」にリアル掲示されている。

③地目別土地面積—『東京都統計年鑑』土地面積および気象欄に収録される。

これら統計は個々の調査目的を持つため同年次の公示数値(字)は一致していない。

ちなみに①は国連食糧農業機関(FAO)提唱の農業調査(以後、センサスと略す)で、1950(昭25)年に日本も参加しだした国の基幹統計調査。5年ごとに農業経営の個人・組織・法人を対象に、農業構造とその年次比較可能となる基礎資料作成を目的とする。指定調査員が農業経営体を巡回調査し、結果は国・都道府県・市町村別に公表される。都では調査結果を毎年刊行される『東京都統計年鑑』の「農業」欄に引用掲載している。ただし掲載値は集計年